

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- ◆1冊のフィールドノートを最大限に生かそう・・・・・・・・・・1
- ◆プロ・ナトゥーラ・ファンド助成募集のご案内・・・・・・・・・・4
- ◆日本野鳥の会遠江・リーダー研修会報告・5
- ◆初心者対応の工夫 初心者対応の工夫
大阪支部リーダーに聞きました！・・・・・・6
- ◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・8
・特集・初心者向けバードウォッチング
(苫小牧支部)
- ◆2018年度冬期「初心者向けバードウォッチング」結果一覧・・・・・・・・・・11
- ◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・13
(2019年4月分)
- ◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・15
・財団ホームページ「探鳥会情報」の内容確認のお願い
・ツバメのねぐら入り観察会を広報します
・秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください
・今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは福井県で開催！
・「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？
- ◆今月の購読者数・・・・・・・・・・18
- ◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・19
- ◆編集後記・・・・・・・・・・19

◆1冊のフィールドノートを最大限に生かそう

フィールドノートは、上手に活用すればバードウォッチングの楽しさも倍増します。しかし、その使い方のノウハウを紹介したのもそれほど多くありません。

今回は、日本ネイチャージャーナルクラブというコミュニティを主宰する小林絵里子さんに、フィールドノートの活用方法について寄稿していただきました。(普及室)

バードウォッチングで必需品のひとつとしてあげられるのが、フィールドノート。みなさんは普段どのように使っているのでしょうか？

今回は特に、「基本、記録は写真。ノートにはその日見た鳥の種類くらいしか書かない」という方のために、内容をさらに充実させるフィールドノートの書き方のアイデアについてシェアさせていただきたいと思います。

■カメラが使えない！というときは…

そもそもフィールドノートの役割とは何でしょう？「記録を残すための道具」ですよ。その役割を果たしてくれるもう一つの道具として、「カメラ」を使う方は多いでしょう。

ただ、最近のカメラは性能が良くていいんですが、弱点もあります。それは「動きが早

くて撮れない」「距離が遠すぎる」「明るさが足りない」「バッテリーがなくなった！」といったことです。みなさんも少なからず経験したことがあるのではないのでしょうか。

こういうときのためにお勧めしたいのが、スケッチです。そうすると、「描けたらいいんだけど…自分には才能ないから」という方も多いことでしょう。

■スケッチと文字で記録する

植物調査の分野では「スケッチは必須」といわれているように、自然観察においてスケッチは大変役に立つツールです。言葉と絵の両方を使って情報を整理することにより、より詳細な記録を残すことが出来ます。人間は視覚の生き物です。例えば単純なマークのような絵であっても、文字だけで書かれているより、それが

あることによって、書かれた内容がより記憶に残りやすくなるはずですよ。

絵を描くとなると途端に「自分は描けないから」と身構えてしまう方もいますが、ここで大切なことは、「上手な絵を描こうとしない」ことです。あまりに高いレベルをイメージして怖気づくより、まずすぐに手の届くレベルを達成して、それを繰り返していくのです。

簡単なスケッチの描き方の資料を添付しましたので、よろしければそれに従って練習してみてください。基本的に、絵は、「文字」が書ける、「○△□」が描ける人なら誰でも描けます。

フィールドノートの役割は「記録を残す」ことですから、「きれいで上手な絵を描く」ことよりも、「出来るだけ詳細な情報を残す」ことに重点をおきます。①写真で出来ないことはスケッチやメモで補う ②言葉で表現しきれないことはスケッチで描く ③スケッチで描けないことは言葉で書きこむ。これで、記録すべき情報はほぼ網羅できるはずですよ。

ピントが合わないオートフォーカスにイラつくより、出来るだけじっくり集中して対象を観察し、スケッチした方が早いかもしれません。脳神経科学の研究では、人間は基本的に一度にひとつのことにしか集中できないようになっているそうです。つまり、カメラの操作に集中

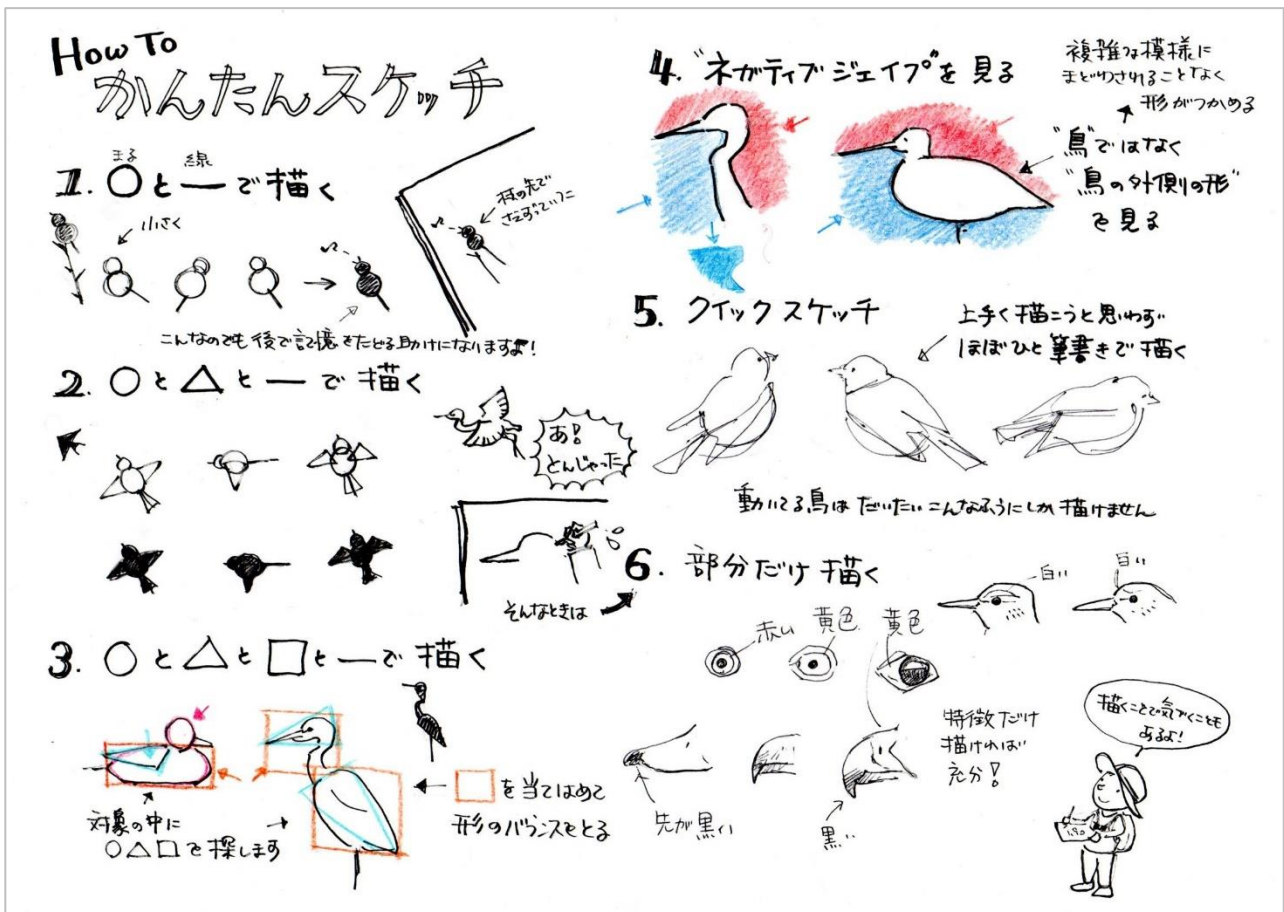
力を奪われていると、結果的に肝心の観察のタイミングを逃してしまう可能性が高くなるのです。そんなとき、スケッチを描く、メモで残すという選択肢があれば、短い時間に集中して対象を観察することができます。



▲フィールドノートの例

■見たことをそのまま言葉にしてみる

とはいえ、「俊敏に動き回る鳥を見ながら、どうやってメモやスケッチを書くのか」と思われるかもしれません。そのコツを一つ、お教えします。それは、「口に出してつぶやく」こと。やり方は言葉どおり、目にした特徴を、片端から言葉にしていくのです。双眼鏡やスコープから



▲簡単スケッチテクニック

目は離しません。時間が許される限り、観察に集中します。

鳥が去ったあと、つぶやいたことをフィールドノートに書きこみます。忘れてしまうのではないかと心配になるかもしれませんが、集中して観察した映像と言葉がセットになって意外と覚えているものです。音があった方が、記憶として脳に定着しやすいのでしょう。

書きおこすときは、絵で描いた方がわかりやすい部分は絵で描き、うまく描けない部分は言葉で補います。文字寄り、画像寄りは個人差があります。どちらかに比重が片寄っても構いません。

■他人に向けて書く

書くときは、たとえ自分のノートであっても、「他人に伝わるように書く」ことをおすすめします。自分のノートなのに、なぜ他人を意識する必要があるのでしょう？

人間は、「忘れる生きもの」でもあります。後で自分のノートを見返したとき、「これ何のこと書いたんだっけ？」と、思い出せなくなったことはありませんか？（私はしょっちゅうあります！）残念ながら、素晴らしい光景や出来事に出逢い、どんなに「一生忘れない！」という自信があっても、私たちの記憶は、後からの情報に上書きされ、薄れていってしまいます。「過去の自分は他人」なのです。他人を意識して記録しておけば、記憶の迷子を避けることができます。

■疑問を書きこむ

観察していると、様々な疑問や気づきが出てくると思います。たとえば、たわいのない疑問だと思っても、のちに出てきた疑問の解決につながるかもしれません。そのとき自分がそう思ったことには、何かしらの意味があることが多いのです。ですから出てきた疑問は、出来るだけその場で書きとめておきます。書き出すことによって、頭の中で考えているだけでは出てこなかった疑問や気づきがさらに出てくることもあります。

ナチュラリストでエドゥケーター、アーティストでもある「鳥の描き方マスターブック」著者のジョン・ミュア・ロウズ氏が、自然観察に役立つ問いかけをカードにまとめ無償提供しているものを和訳して添付しました。よろしければ観察会でご利用ください。

観察を深める問いかけヒント

①気づいたことは何ですか？

・言葉、絵、数を使って詳しく書いてみましょう。

②疑問に思ったことはなんですか？

・見た種類は何？あるいは何だったと思う？
・遭遇した出来事、今起きていること、これから起こると予想することは？
・場所はどこだった？または次はどこへ行く？
・それはいつ起こった？次はいつ起こる？
・それはどのように周囲の環境と関わっている？
・なぜそれが起こっている？あるいはそのようになっている？

③それを見て思い出したことは何ですか？

・以前気づいたこと、見たことがあるもの、聞いたこと、触れたことがあるものを思い出してみよう。

※知識として「すでに知っていること」ではなく「新しい発見」を最重要視します。

INIWIRMOfield label by John Muir Laws

▲観察を深める問いかけヒント

ここまで読んでいただいて、もしかしたら、別段目新しい情報はなかったかもしれませんが。なぜならこれは、自然科学の調査や研究で古くから使われている基本的な手法だからです。この方法は、子どもから大人まで使うことができます。フィールドノートに記録をするというシンプルな行動が、その日の満足度の度合いだけでなく、参加者の人生にもよい影響を与え、何より見える世界を広げるとしたら、素敵だと思いませんか？

以上、より充実した探鳥会にするために、少しでもお役に立てば幸いです。

～小林絵里子（こばやし えりこ）略歴～

東京三鷹市生まれ。ネイチャーアーティスト、イラストレーター。著書に絵本「ちびっこびいた」（こぐま社）、挿絵に「牙なしゾウのレマ」（滝田明日香・作、NHK出版）など多数。

2013年、ひとり娘の出産をきっかけに、子どもの「自分の頭で考え生き抜く力」を育てるために、約10年前に知った米国発祥の自然観察絵日記「ネイチャージャーナル」が有効と再認識。その後サンフランシスコを拠点とする「ザ・ネイチャージャーナルクラブ」主宰のジョン・ミュア・ロウズとの出会いをきっかけに、2018年「日本ネイチャージャーナルクラブ」を立ち上げ、月に一度、神奈川県内の公園でフ

フィールドワークを行っている。子どもから大人まで誰でも参加可。現在では、「ネイチャージャーナル」という言葉の生みの親、アーティストのクリア・ウォーカー・レスリーとも交流を深める。

FBグループ Japan Nature Journal Club
<https://www.facebook.com/groups/japannaturejournalclub/>
ブログ「ネイチャージャーナルをはじめよう」
<https://naturejournaling.exblog.jp/>
も更新中。

アートを通じた環境保全活動を行うカナダ拠点のアーティスト団体” Artists For Conservation(AFC) 会員。神奈川県座間市在住。

【イベント案内】6月23日(日)、東京港野鳥公園にて鳥のスケッチを中心にしたスペシャルフィールドワークを行います。詳細は Japan Nature Journal Club フェイスブックページ、またはブログにてご確認ください。

◆プロ・ナトゥーラ・ファンド助成募集のご案内

日本野鳥の会神奈川支部幹事の高島さんは、支部のほかに公益財団法人自然保護助成基金に所属されており、自然保護に関する助成事業に携わっています。財団では、この助成事業が支部のみなさまにとって役に立つと考え、高島さんから助成事業に関する情報をご提供いただきました。(普及室)

今回お知らせする助成金「プロ・ナトゥーラ・ファンド助成」は、29年間にわたる実績があり、全国の自然保護活動や研究プロジェクトに助成を行っています。日本野鳥の会の財団事務局や複数の支部でも、多くの活用実績があります。

是非とも、全国の支部の皆様の活動に基金を活用していただきたいと考えております。

また北海道地域の皆様は、「特定テーマ助成」もご検討ください。

以下が今年の募集の内容です。

【(参考) 本助成金における日本野鳥の会の最近の採択事例】

- ・2017年 (公財) 日本野鳥の会
「風力発電施設の建設がチュウヒに与える影響の基礎調査」
- ・2016年 (公財) 日本野鳥の会
「風力発電がナベツル・マナヅルに与える影響予測の基礎調査」
- ・2016年 日本野鳥の会東京
「葛西海浜公園『三枚洲』ラムサール条約湿地登録への普及啓発」
- ・2015年 日本野鳥の会神奈川支部
「多摩川河口干潟保全のシンポジウム開催」

(日本野鳥の会神奈川支部/高島輝久)

【公益財団法人自然保護助成基金より 「第30期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成」のお知らせ】

■助成の趣旨

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成では、日本や海外の自然保護のための、フィールドワークに基づいた基礎的な研究や、地域に根ざした自然保護活動、そして公益財団法人自然保護助成基金が年度ごとに定める特定のテーマに取り組むプロジェクトに対して助成を行います。

■助成対象カテゴリー

A. 国内研究助成・・・日本国内における

自然保護のための調査・研究

B. 国内活動助成・・・日本国内における自然保護のための普及活動

【地域NPO活動枠】・・・日本国内の地域NPOによる地域の自然保護活動

C. 海外助成・・・海外の地域における自然保護のための調査・研究および普及活動

D. 特定テーマ助成・・・第30期のテーマ『きたマップ』(北海道の環境保全活動のデータベース)を活用した北海道の自然保護に関する調査・研究および活動

(『きたマップ』とは?→

<http://kitamap.net/>)

■応募資格

A, B, C, D: 自然保護のための、調査・研究や活動を進める能力のあるグループ
B【地域 NPO 活動枠】: 地域に根ざした自然保護活動を 3 年以上行なっている NPO 法人

■助成期間

2019 年 10 月～2020 年 9 月の 1 年間
(A と D については、最大 2 年間)

■助成金額

A, B: 1 件あたり上限 100 万円
C: 1 件あたり上限 150 万円
D: 1 件あたり 1 年につき 50 万円で、最大 2 年間 (100 万円)

■応募方法

右記 URL より募集要項、申請書類をダウンロードの上、期日までに申請書をご提出ください。

<http://www.pronaturajapan.com/foundation/pronaturafund/30pnfbosyu>

容量が 2MB 以下のファイルであれば、メール添付でご提出いただいても構いません。

■募集締め切り

2019 年 7 月 12 日 (金) 正午
(郵送の場合は必着)

■選考方法

専門家による審査委員会にて選考の後、当財団理事会の決議を経て、助成先を決定致します。

選考結果は、2019 年 9 月末までに当財団 Web サイトにて公開します。

■この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人自然保護助成基金
プロ・ナトゥーラ・ファンド助成担当係
Tel: 03-5454-1789
Fax: 03-5454-2838
Email: office@pronaturajapan.com

◆日本野鳥の会遠江・リーダー研修会報告

5 月 11 日 (土) に、日本野鳥の会遠江でリーダー研修会が開催され、普及室より、箱田、堀本が講師として参加しましたので、内容をご紹介します。

開催のきっかけは、探鳥会スタッフ通信で日本野鳥の会栃木県支部のリーダー研修会の記事を目にされたことだそうです。5 月 11 日 (土) は、午前中に、バードウィーク探鳥会と総会が予定されており、多くの参加者が見込めるため、この日の午後で開催となりました。

中部ブロック所属の支部にも開催のお知らせをし、当日は、遠江から 21 名、愛知県支部から 4 名の参加がありました。

■開催概要

【日時】2019 年 5 月 11 日 (土)
13 時 00 分～16 時 40 分
【会場】静岡県立森林公園 森の家
(静岡県浜松市)
【参加者】25 名
(遠江 21 名、愛知県支部 4 名)
【講師】財団普及室 箱田、堀本

2014 年度から支部・財団共催で開催している『初心者向けバードウォッチング』の参加支部は、2018 年度に 31 支部となりました。

ここでは、開催のポイントについて、小冊子申込者へのダイレクトメールを使った広報及びカード式名簿の使用について重点的にお話ししました。

■当日の流れと内容

13:00 開会・オリエンテーション
13:15 講義

『初心者向けバードウォッチング』の仕組みと概要

13:30 実習

リーダーと参加者のコミュニケーション

参加者がまったくのバードウォッチング初心者となる『初心者向けバードウォッチング』では、リーダーの意図が参加者に上手く伝わらないケースが見受けられます。リーダ

ーの話が参加者に伝わるまでには、どのような過程があるかを説明したうえで、実験を通して、コミュニケーションの難しさを実感していただきました。参加者の皆さんには、「話しやすい環境をつくりたい」「適切な情報量と質を心掛けたい」「探鳥に気を取られず、全体を見るようにしたい」と言った感想をいただきました。

14:15 講義

探鳥会のリスクマネジメント

初心者向けのバードウォッチングが広がっていくと、必然的に、野外活動に不慣れな方が探鳥会に多く参加するようになります。リスクへの備えが一層必要になります。

ここでは、探鳥会のリスクマネジメントについて、概要、指導者の法的責任、手順（リスクの発見、評価、対処、フォローアップ）を解説しました。

15:40 実習

探鳥会におけるリスクの評価

講義で紹介した、「リスクの評価」をグループごとに実践しました。

これまでに遭遇した探鳥会でのヒヤリハットの事例を挙げ、それらを「事故が起こる可能性」と「起きた場合のダメージの大きさ」という2軸で分類。その後、事故が起こる可能性が高く、ダメージも大きい事柄について、どのような対処ができるかを話し合い、発表しました。



▲グループワークの様子

16:40 閉会

■まとめ

リスクマネジメントに関する研修会は、昨年大阪に続き2回目の開催でした。今回は、探鳥会でのリスクを評価する実技を加えましたが、終了後のアンケートでは、「具体事例を基に考える良い機会になりました」「面白くリスクについて考えることができました」等の意見をいただき、理解がより深まっていたように感じました。

研修会を開催したいというご希望等ございましたら、お気軽に普及室までご連絡ください。

(普及室/堀本理華)

◆初心者対応の工夫 大阪支部リーダーに聞きました！

5月12日(日)に大阪で、日本野鳥の会大阪支部のリーダーにご協力いただき、ニコンモナーク探鳥会を開催しました。同じ班になった大阪支部リーダー、久下直哉さんに、初心者対応での心掛けについてお聞きしました。探鳥会リーダーのみなさまのご参考になると思い、当日の案内の様子とともにご紹介いたします。

■ニコンモナーク探鳥会とは

普及室では、株式会社ニコンイメージングジャパン協賛の探鳥会を年5回開催しています。小冊子の申込者を対象にした初心者向けの探鳥会で、ニコンの双眼鏡「モナークシリーズ」を貸出します。これからバードウォッチングを始めたいという方たちに、性能の良い双眼鏡を体験していただき、バードウォッチングの楽しみを知り、継続してもらいたいと考えています。

これまで、東京近郊で開催していましたが、

小冊子の申込者が多い大阪で、今年5月に初開催することにしました。当日は、日本野鳥の会大阪支部のリーダー3名にご協力いただき、2班に分かれて大阪南港野鳥園の林と干潟で観察をしました。

【日時】2019年5月12日(日)
9時45分~12時00分

【会場】大阪南港野鳥園(大阪府大阪市)

【参加者】25名

【スタッフ】大阪支部3名、財団普及室3名

■久下さんが初心者対応で心掛けていること

『リーダーとしていつも心掛けていることは、自分自身が初心者に戻り、参加者の立場、目線になって案内することです。そうでないと、リーダーの参加者への一方通行の解説で終わってしまうからです。』

初めての方は、初めて触る双眼鏡、その双眼鏡に鳥を入れる事ができるかという不安でいっぱいです。まずはその不安を取り除くために、ゆっくりと段階を詰めていけば良いと思います。

- ① 鳥がいる環境を伝えることで、どこに双眼鏡を向けて鳥を探せばよいかわかります。
- ② 鳥が鳴いている方向に体を向けて、まずは裸眼で探す。何か動いたら双眼鏡を添えるように見る。
- ③ 身近な野鳥を観察できているかな？スズメ・ムクドリ・ヒヨドリ・カラスなど。

リーダーは、どうしても、「鳥を見て感動させたい」という気持ちが強くなりがちですが、まずは①から③をやって次の段階に進むことが大切なのではないかと思います。』

■リーダーが鳥を探す視点を伝える

探鳥会では、はじめに双眼鏡の使い方とリーダーが鳥を見つけた時にどう方向を伝えるかが説明されました。方向については、

「鳥を見つけたら、何時方向にいます、という言い方で方向を伝えますね。正面でしたら 12 時方向と言います。」

と、時計の短針に例える方法が説明されました。タイミングよく近くの木にとまったヒヨドリで練習した後、久下さんを先頭に樹林帯にある園路を進むことになりました。園路を進む前には、

「鳥を見つけるために、リーダーがどこを見ているかお伝えしますね。この環境では、道の一番遠いところの地面です。」

と案内がありました。リーダーが鳥を見つけるまで参加者は手持無沙汰になりがちですが、予め見つけ方を教わったため、参加者もそちらに視線を向けながら、一緒に歩くことができたようです。

道の先には、ムクドリが採餌していました。脅かさない距離まで近づき、双眼鏡で観察しました。久下さんは、

「足の色は、何色ですか？」

「嘴はどうですか？」

「足を交互に出してウォーキングしています



▲林の園路での解説の様子

ね。」

などと声をかけ、参加者が双眼鏡を使っているかも確認していました。その後で、鳥の名前を伝えます。

「オレンジ色の足と嘴で、ウォーキングする鳥、ムクドリと言います。」

「スズメ、ムクドリ、ハト、カラスは、大きさの基準となる鳥として、物差し鳥と呼ばれています。分からない鳥に出会ったときに、ムクドリより大きかった、と伝えることができますよ。」

葉が生い茂り見通しの悪い時期であったため、続いては、鳥の声に注目しました。

「皆さん、耳を澄ませてみましょう。どんな声が聞こえますか？」

と促し、センダイムシクイ、キビタキの声を丁寧に伝え、参加者がしっかり認識できるようになったところで、図鑑で名前と姿を紹介していました。

「バードウォッチングには、見るだけでなく、声を楽しむ、という楽しみ方があります。」

と話され、参加者の皆さんも納得の様子でした。

■双眼鏡を見ながら実況

後半は、展望塔から干潟の観察です。展望塔に入る前、久下さんは図鑑を見せながら、

「皆さん、まずはこの2種類を探してみてください。下に曲がった大きなくちばしをもつ鳥、チュウシャクシギ。胸の赤い鳥、メダイチドリと言います。見つけたら、私に教えてください。」

と案内しました。干潟には、シギ・チドリがたくさんいるため、参加者が何をどのように観察したらよいか分からないだろうと考え、朝の下見で、見つけやすく特徴的な2種類を選んでおいたそうです。そのおかげで参加者は、展望塔に入ると各々に観察窓へ向かい、自ら探し始め



▲シギ・チドリに魅了される参加者の皆さん

ていました。

久下さんの周りでは、メダイチドリを紹介した後、干潟の実況中継さながらの解説が繰り広げられました。

「メダイチドリの手前に追いかけて合っている小さい鳥がいますね。足を見てください、黄色いですね。キアシシギと言います。」

参加者と同じ視野で双眼鏡を合わせているため、参加者は、干潟の様子にくぎ付けになっていました。時々、

「一旦、双眼鏡を外しましょう。前方の干潟に木が倒れていますね。そこに双眼鏡を合わせてみましょう。」

と声掛けがあり、全員が同じ視野で観察できるような気配りも欠かしませんでした。

■まとめ

久下さん自身が身近な鳥の観察や鳥の声を聴くことを楽しみ、大事にしている姿勢が伝わってきました。夏鳥の季節になると、どうしても綺麗な姿を見てほしい、という気持ちになりがちですが、初めてバードウォッチングをする方の気持ちを考えているからなのだと思います。

探鳥会の限られた時間の中で、リーダーが見せたい鳥を探すことに精一杯になると、姿が見られなかった場合に「残念だった」という感想になりかねません。物差し鳥としてムクドリをしっかり観察することや、声を参加者全員が認識できるようにするというステップを踏むことで、初めての参加者も安心でき、全体の満足度が上がっていたように思いました。

(普及室／堀本理華)

◆探鳥会訪問記 特集・初心者向けバードウォッチング

ビギナーズ探鳥会 in 出光カルチャーパーク（苫小牧支部）

【日程】2019年5月12日（日）9時00分～10時30分

【場所】出光カルチャーパーク（北海道苫小牧市）

【天候】晴れ

【参加者】14名（うち一般参加者14名）

【リーダー】6名、財団職員1名

【広報】＜新聞＞苫小牧民放、北海道新聞（地域版）

＜インターネット＞財団HP／facebook／twitter

＜メール＞一斉メール送信（3月下旬、全国約60,000名に送信）

＜チラシ＞支部作成のチラシ（市内公共施設等で配布）、探鳥会のご案内（4月初旬から全国約40,000名に送付）

＜その他＞情報誌「北海道ウォッチングガイド」

■探鳥会の概要

「出光カルチャーパーク」は、苫小牧市の中心部に位置する苫小牧市立の公園です。敷地内には、広場や池、林があり、5月にはキビタキやオオルリなどの夏鳥が見られます。

苫小牧支部では、過去2年間、初心者向けバードウォッチングを11月に開催してきました。それらは、ウトナイ湖の水鳥を観察する会でし

たが、美しい夏鳥もぜひ見てほしいと、この探鳥会を企画されました。

なお、参加者は事前申込制で募集されました。

■観察の様子

リーダーからのあいさつの後、双眼鏡の使い方方を丁寧に説明しました。全体を2つのグループに分けて、公園をそれぞれ逆方向から一周す

るコースを歩きました。

歩き始めた直後、ある若い女性から、「いつも家の近くにいる鳥が気になっていて、名前を知りたい。」

という質問がありました。リーダーが詳しく話を聞いても、その場では答えができませんでした。

その後、稍でさえずるシジュウカラをゆっくり観察して移動しようとしたとき、ハクセキレイが現れ、リーダーが案内しました。すると、先ほどの女性が

「私がいつも見ていたのは、この鳥です！」と嬉しそうな声を上げました。日頃の疑問が解けて、とても晴れ晴れとした顔で観察をしていました。

また、ある参加者のご夫婦が、「メジロ見てみたい。」とおっしゃっていたところ、運よくメジロが出現。ちらっとしか見られませんでした。「かわいい！」と、とても喜んでいました。

鳥に興味はあるけれど詳しい人と会う機会がない、実際に観察する機会がない、という想いを持っている方々の受け皿として、探鳥会が果たす役割は大きいと、改めて実感しました。

■なかなか鳥が見られなくても

当日は、天気の良いものの、風が強く、林の鳥が見つけにくい条件でした。そのため、リーダーのみなさんは、見られた鳥について、名前や見分け方だけでなく、その習性や観察しておもしろい点などを詳しく話していました。

また、たくさんのタンポポが咲いている場所では、在来種と外来種の見分け方の説明がありました。鳥が見られない時間も、リーダーの豊富な知識を生かしたお話が続き、参加者の皆さんも、その話を興味深そうに聞いていました。



▲鳥が見られない時間は、足元の草花の説明を

■まとめの様子

1時間ほど園内を歩き、スタート地点へ戻りました。鳥あわせの後、あらためて会の紹介やお試し入会（500円で支部報半年送付）のよびかけがあり、入会のメリットが説明されました。

最後にアンケートが配られ、参加者の皆さんから感想を書いていただきました。終了後には、3名の方がお試し入会をされました。

■終了後の反省会で

リーダーのみなさんから、「参加者から、もっと時間が長くてよい」との感想があったことや、「鳥があまり見られないときのために、自分も、植物の解説ができるようにしたい」という意見が出されました。

参加者アンケートでは、「丁寧に説明してもらえてよかった」「双眼鏡の使い方が良く分かった」「また参加したい」という声が多く寄せられていました。

■参加者の声

60代男性：定年退職し、新しい趣味を探しているので、歴史の勉強会や自然観察会によく参加しています。今回はウトナイ湖ネイチャーセンターのチラシを見て参加を決めました。

■まとめ

「こんな鳥が見たい」「鳥のこと知りたい」「新しい趣味を見つけたい」と明確な動機をもった方々が参加し、その期待に応える探鳥会でした。

一方で、「参加者に楽しんでもらえるのは嬉しいが、初心者向け探鳥会は、通常の探鳥会とは違った準備があり、また、リーダーを多く集める必要があり、開催へのハードルが高い」「お試し入会から正入会に移行してもらうのが難しい」という悩みも聞かれました。

これらの課題は、苫小牧に限らず、他の支部でも聞かれることです。われわれとしても、課題の解決に役立つ情報を収集し、発信して行ければと思います。

（普及室／江面康子）

(カード式名簿記入者のアンケート結果)

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性5名 女性9名	9歳以下1名 10代1名 20代2名 30代1名 40代1名 50代0名 60代4名 70歳以上4名	家族・友人の紹介5名 支部HP3名 探鳥会のご案内3名 支部のチラシ1名 新聞1名 その他1名	一般14名 会員0名	今回初めて6名 2~4回2名 5~9回0名 10回以上6名	苫小牧市9名 江別市2名 むかわ町2名 恵庭市1名

表1 2018年度冬期「初心者向けバードウォッチング」結果一覧

NO	実施日	支部	実施場所	天気	全参加者数	一般参加者数 (全参加者に 占める割合)	初心者数 (全参加者に 占める割合)	お試し入会者数 (一般参加者に 占める割合)	リーダー数 (1人のリーダーに 対する参加者数)
No.1	1/5(土)	栃木県支部	羽田沼	晴れ	31	14(45%)	8(26%)	0	7(4)
No.2		東京	日比谷公園	晴れ	36	36(100%)	-	20(56%)	8(5)
No.3	1/6(日)	大阪支部	大阪城公園	晴れ	61	59(97%)	46(75%)	15(25%)	13(5)
No.4		佐賀県支部	東よか干潟(大授瀬)	晴れ	32	6(19%)	2(6%)	0	2(16)
No.5	1/13(日)	根室支部	明治公園		6	4(67%)	-	制度なし	2(3)
No.6	1/14(祝・月)	ひょうご	夙川公園	晴れ	61	61(100%)	48(79%)	11(18%)	16(4)
No.7	1/19(土)	栃木県支部	井頭公園	晴れ	42	30(71%)	25(60%)	1(3%)	8(5)
No.8		神奈川支部	柏尾川	晴れ	21	21(100%)	16(76%)	13(62%)	4(5)
No.9		静岡支部	蓮華寺池公園	晴れ	36	20(56%)	10(28%)	0	3(12)
No.10		京都支部	京都御苑	晴れ	21	21(100%)	17(81%)	紹介なし	9(2)
No.11	1/20(日)	根室支部	根室市市民の森		4	2(50%)	-	制度なし	2(2)
No.12		茨城県	茨城県植物園		20	16(80%)	18(90%)	5(31%)	3(7)
No.13		沼津支部	門池公園	曇り時々小雨	15	14(93%)	6(40%)	制度なし	2(8)
No.14		筑後支部	篠山城址～筑後川	曇り	17	8(47%)	7(41%)	0	7(2)
No.15	1/27(日)	埼玉	長瀬町・荒川	晴れ	23	20(87%)	17(74%)	制度なし	5(5)
No.16		熊本県支部	水前寺江津湖公園		69	52(75%)	36(52%)	0	5(14)
No.17	2/2(土)	栃木県支部	小山運動公園	晴れ	25	17(68%)	16(64%)	2(12%)	8(3)
No.18	2/3(日)	埼玉	柳瀬川	晴れ	25	24(96%)	19(76%)	制度なし	4(6)
No.19		埼玉	北本自然観察園	晴れ	30	30(100%)	26(87%)	制度なし	4(8)
No.20		奈良支部	平城宮跡	晴れ	50	24(48%)	19(38%)	2(8%)	6(8)
No.21	2/9(土)	東京	日比谷公園	雪	3	3(100%)	-	3(100%)	4(1)
No.22		遠江	静岡県立森林公園	晴れ	42	12(29%)	10(24%)	制度なし	5(8)

No.23		根室支部	明治公園		13	8(62%)	-	制度なし	2(7)
No.24	2/10(日)	京都支部	宝が池公園周辺	雪のち晴れ	70	69(99%)	53(76%)	紹介なし	9(8)
No.25		岡山県支部	龍ノログリーンシャワーの森	曇り	20	20(100%)	13(65%)	制度なし	5(4)
No.26		島根県支部	松江イングリッシュガーデン	曇り	34	25(74%)	23(68%)	8(32%)	2(17)
No.27	2/16(土)	栃木県支部	なかがわ水遊園		35	15(43%)	10(29%)	0	6(6)
No.28	2/17(日)	根室支部	根室市市民の森		7	5(71%)	-	制度なし	2(4)
No.29	2/20	茨城県	茨城県植物園	晴れ	18	18(100%)	18(100%)	3(17%)	3(6)
No.30	2/23(土)	埼玉	岩槻文化公園	晴れ	8	5(63%)	5(63%)	制度なし	4(2)
No.31		神奈川支部	新横浜公園	晴れ	48	36(75%)	36(75%)	5(14%)	11(4)
No.32	3/2(土)	東京	日比谷公園	晴れ	62	60(97%)	-	35(58%)	11(6)
No.33	3/3(日)	石川	普正寺の森	晴れ	29	28(97%)	21(72%)	6(21%)	6(5)
No.34		根室支部	明治公園	晴れ	9	4(44%)	-	制度なし	2(5)
No.35	3/10(日)	栃木県支部	渡良瀬川河川敷	晴れ	29	14(48%)	3(10%)	0	8(4)
No.36		埼玉	熊谷市大麻生	晴れ	16	14(88%)	9(56%)	制度なし	2(8)
No.37		茨城県	勤行緑地	晴れのち曇り	18	10(56%)	6(33%)	0	2(9)
No.38	3/16(土)	三重	宮リバー度会パーク	曇り時々晴れ	25	15(60%)	15(60%)	制度なし	2(13)
No.39	3/17(日)	根室支部	根室市市民の森	晴れ	7	5(71%)	-	制度なし	2(4)
No.40		沼津支部	沼津御用邸記念公園	晴れ	40	30(75%)	4(10%)	制度なし	2(20)
No.41	3/24(日)	島根県支部	出雲大社		33	24(73%)	16(48%)	3(13%)	3(11)
No.42		福井県支部	気比の松原	曇り	21	17(81%)	-	制度なし	9(2)
合計					1212	916(76%)	578	132	

*「初心者」は、カード式名簿のアンケートで、これまでのバードウォッチング経験が「0から4回」と回答した方

*以下の「初心者向けバードウォッチング」では、当日の正式入会がありました。

No1:2人、No.4:1人、No.6:2人、No.10:2人、No.14:1人、No.16:1人、No.17:1人、No.24:1人、No.26:1人、No.27:2人、No.30:2人、No.33:1人、No.35:4人

◆探鳥会保険集計結果（2019年4月分）

4月は69支部からご報告をいただき、計287回の探鳥会が開催され、のべ7,725人が参加されました。

表2. 4月の探鳥会保険集計結果（2019年5月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	2	43	10	2	55
根室支部	2	10	5	5	20
釧路支部	1	15	17	3	35
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	1	15	1	1	17
滝川支部	1	15	2	8	25
道北支部	1	1	7	4	12
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	163	108	13	284
小樽支部	2	7	6	2	15
苫小牧支部	2	7	18	4	29
室蘭支部	1	12	8	4	24
道南桧山	2	15	8	5	28
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	17	2	2	21
秋田県支部	4	66	1	5	72
山形県支部	4	38	13	6	57
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	19	9	6	34
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	54	17	7	78
ふくしま	2	42	1	4	47
郡山支部	1	14	0	3	17
白河支部	1	2	1	8	11
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	21	5	1	27
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	8	75	70	11	156
栃木県支部	14	303	96	44	443
群馬	9	109	45	31	185
吾妻	2	47	20	5	72
埼玉	12	318	87	79	484
千葉県	9	130	33	38	201
東京	15	669	45	71	785
奥多摩支部	10	142	34	34	210
神奈川支部	11	178	52	36	266
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	3	77	36	5	118
石川	2	46	25	6	77
福井県	1	8	4	1	13
長野支部	5	99	10	10	119
軽井沢支部	2	17	24	2	43
諏訪支部	3	16	17	6	39
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	42	3	4	49
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	11	0	2	13
南富士支部	1	50	12	2	64
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	-	-	-	-	-
遠江	3	83	28	11	122
愛知県支部	13	206	140	35	381
岐阜	-	-	-	-	-
三重	5	41	26	8	75
奈良支部	4	131	14	9	154
和歌山県支部	1	3	13	4	20
滋賀	6	48	53	12	113
京都支部	10	197	64	29	290
大阪支部	21	455	114	101	670
ひょうご	9	113	82	25	220
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	37	5	3	45
島根県支部	2	9	4	2	15
岡山県支部	4	67	21	13	101
広島県支部	5	75	46	7	128
山口県支部	3	27	7	3	37
香川県支部	4	75	13	4	92
徳島県支部	7	116	8	7	131
高知支部	0	0	0	0	0
愛媛	5	73	30	9	112
北九州支部	3	48	4	3	55
福岡支部	8	126	28	16	170
筑豊支部	8	105	12	8	125
筑後支部	5	31	8	10	49
佐賀県支部	2	70	18	3	91
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	2	37	76	12	125
大分県支部	1	25	8	2	35
宮崎県支部	2	35	9	2	46
鹿児島	3	39	24	11	74
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	1	2	1	4
全国	287	5,186	1,709	830	7,725

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■財団ホームページ「探鳥会情報」の内容確認のお願い■

財団ホームページには、支部の定例探鳥会の情報を掲載しているページがあります。このページは、誰でも自由に閲覧することができます。

お手数ですが、**財団ホームページに掲載されている各支部の「探鳥会情報」(右記URL)の内容に、間違いがないかご確認をお願いいたします。**

過去に、財団ホームページの内容が更新されていないために、参加者が別の場所へ集合してしまったケースがございました。

また、掲載の追加をご希望する探鳥会がありましたら、探鳥会情報をご記入いただくためのフォーマットをお送りしますので、右記の連絡

先へご一報ください。

【財団 HP・各支部の探鳥会情報ページ】

<http://www.wbsj.org/about-us/group/tanchokai/>

【HP 掲載内容の変更・追加に関する連絡先】

普及室 普及教育グループ

tancho-staff@wbsj.org

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635



▲探鳥会情報は、財団 HP の上図の赤枠をクリックすると表示されます

■ツバメのねぐら入り観察会を広報します■

「ツバメのねぐら入り観察会」の情報提供にご協力いただき、ありがとうございました。お知らせいただいた観察会について、以下の広報を実施しますのでお知らせいたします。

【ツバメのねぐら入り観察会 広報計画】

(1)「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」送付

6月下旬に、パンフレット「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」を全国の約 50,000 名(小冊子申込者等)に送付します。

(2) 財団 HP 上に特設ページ開設

財団 HP 内に、「全国 ツバメのねぐら入り観察会のご案内」として特設ページを設置します。

(3) 一斉メール送信

7月上旬に全国約 65,000 名(小冊子申込者等)に送信予定です。

(4) 野鳥誌

野鳥誌 8月号へ掲載します。

たくさんの方々が参加されることを願っております。

【カード式受付名簿のご利用のお願い】

ツバメのねぐら入り観察会は、会員ではない方の参加が多く見込まれます。会員ではない観察会参加者に向けて、右図の「カード式受付名簿」をご利用いただき、名前のほか、住所などを記入していただくことで、財団からパンフレット「探鳥会のご案内」を年4回送付することが可能です。ぜひご検討いただければと思います。

記入後の名簿は、簡易書留で普及室にお送りください。送料は、後日切手でお返しいたします。

詳細につきましては、普及室普及教育グループ(tanchostaff@wbsj.org)までお問い合わせください。

参加者受付カード		20__年__月__日 会場
ふりがな		性別
氏名		男 女
家 族		男 女
		男 女
		男 女
〒		
住 所		
電話番号	携帯番号	
E-mail		

※ ご記入いただいた個人情報は、保険加入のほかに、案内資料（探鳥会日程、商品カタログなど）をお送りするために使用させていただきます。なお、当該個人情報は日本野鳥の会岐阜県と（公財）日本野鳥の会が共同で利用し、十分な安全措置を施して管理を行います。案内資料の送付が不要の方はチェックを付けてください。 → □案内不要

▲カード式受付名簿



▲「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」表紙

■秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

「初心者向けバードウォッチング」の秋期（2019年10月～12月）開催分の実施概要を募集しております。

2019年6月21日付で支部事務局あてにご送付しました資料をご覧ください、秋期に開

催される支部のみなさまは、2019年8月9日（金）までに、普及室 普及教育グループ(tanchostaff@wbsj.org)へ実施概要をお送りください。

■今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは福井県で開催！■

今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は、右記の日程、会場で開催予定です。詳細な募集要項は、追ってご案内いたします。

【日 時】2020年2月8日（土）～9日（日）
【会 場】中小企業産業大学校
（福井県福井市）
<http://www.fisc.jp/fiib/>
【定 員】40名
【参加費】10,000～12,000円程度

■「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？■

「探鳥会リーダーズフォーラム」で分科会を企画、実施してくださる方を募集します！探鳥会にまつわることで全国のリーダーと情報共有したいこと、話しあってみたいことがある方はご連絡ください。

※分科会の開催については、内容や応募数を勘案し事務局で調整させていただきますのでご了承ください。

【応募要領】

＜締め切り＞ 2019年8月4日（日）
＜所要時間＞ 分科会の所要時間は、1時間30分の枠（2日目）と2時間の枠（1日目）があります。どちらかをお知らせください。
＜役割＞ 事例紹介、進行など。ただし、分科会の企画運営、進行などは必要に応じて事務局でサポートさせていただきます。お気軽にご相談ください。
＜お申込み＞ 企画する分科会について、右記の項目を記入していただき、8月4日（日）までにメールで、tancho-staff@wbsj.orgまでお送りください。

- 分科会タイトル（内容がよくわかるもの）
- 分科会の内容（200字程度）
- ご担当者（支部名、お名前、電話番号、メールアドレス）

【お問い合わせ、お申込み】

（公財）日本野鳥の会 普及室
普及教育グループ 担当：関、箱田
tancho-staff@wbsj.org
TEL：03-5436-2622

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 6月号の電子メール版の購読者数は、先月から6名増えて851名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表3. 探鳥会スタッフ通信 6月号電子メール版の購読者数 (2019年6月19日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	軽井沢支部	1
根室支部	0	諏訪	7
釧路支部	2	木曾支部	1
十勝支部	1	伊那谷支部	1
旭川支部	3	甲府支部	4
滝川支部	1	富士山麓支部	0
道北支部	1	東富士	0
江別支部	0	沼津支部	3
札幌支部	5	南富士支部	3
小樽支部	3	南伊豆	2
苫小牧支部	2	静岡支部	2
室蘭支部	5	遠江	11
道南松山	1	愛知県支部	44
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	9
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	6
福島県相双支部	0	徳島県支部	6
南相馬	0	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	16
栃木県支部	59	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	21
埼玉	38	筑後支部	5
千葉県	25	佐賀県支部	5
東京	69	長崎県支部	1
奥多摩支部	48	熊本県支部	13
神奈川支部	28	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	4
佐渡支部	1	鹿児島	3
富山	2	やんばる支部	0
石川	29	石垣島支部	1
福井県	11	西表支部	1
長野支部	1	合計	851

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

この頃は平日ではなく、やたらと週末に天気が崩れているように感じるのは、私の気のせいでしょうか。みなさまの探鳥会が無事開催できることを願っております。

今回は、財団職員の原稿のほか、2名の方からいただいた原稿を掲載しています。みなさまの支部での取り組みの中でも、「これ、紹介してみたらどうかな？」という事柄がありましたら、ぜひ普及教育グループまでご相談いただけますと幸いです。

★連載の予告★

現在、10を超える支部で開催されているYoung探鳥会。Young探鳥会が開催されたきっかけについて、みなさまはご存知ですか？

Young探鳥会の立ち上げにまつわるお話の連載が、来月号から始まります。原稿をお寄せいただくのは、Young探鳥会の創始者である神奈川支部の小松さんです。どうぞ楽しみに！

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第75号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2019年6月21日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
